

シラバス

教 科	科 目	単 位 数	学 年	コ ー ス	組
CST	CST 専門教養	2	3	CST	13

教科書	各授業で指定されたものを使用する。	副教材	各授業で指定されたものを使用する。

科目の目標	日本大学理工学部との高大連携教育の一環として、科目等履修生として日本大学理工学部の授業（主に一般教養）を履修する。前期（1学期）・後期（2学期・3学期）で1教科もしくは2科目ずつ、計3～4科目を受講する。
-------	--

科目の概要	現代社会の要請に応えられるしっかりとした基礎学力や専門知識、技術を身につけ、培った能力を最大限に生かす方法や態度を身につける。「生きるための知恵」を学び、個々の学問領域の枠組みにとらわれない、柔軟な発想と知の総合力を身につける。
-------	--

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ②「課題対応力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	各授業毎に指定の方法によって行われる。	各授業毎に指定の方法によって行われる。	各授業毎に指定の方法によって行われる。
評 価 の 方 法	各授業毎に指定の方法によって行う。主にレポートと試験の実施による評価となる。	各授業毎に指定の方法によって行う。主にレポートと試験の実施による評価となる。	各授業毎に指定の方法によって行う。主にレポートと試験の実施による評価となる。

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	<p>生徒は以下の開放科目の中から1～2科目を選択し、受講する。</p> <p>歴史学, ことばと文化, 文学 技術者倫理, 感性芸術学, 倫理学 科学技術と経済, 哲学, 日本国憲法 法学, 心理学 経済学, 社会学 教養基礎ゼミナール(「子ども」について考える) 教養基礎ゼミナール(ジェンダーとセクシュアリティを考える) 教養基礎ゼミナール(服飾美学)</p> <p>4月～7月で計15回の授業を行う。</p>	<p>理系から文系にまたがる広範な分野の科目を履修することにより、幅広い教養と多分野の知識を生かした総合的な判断力を涵養する。これにより自らが積極的に課題を発見し取り組み、主体的に解法を探る力を醸成し、市民の一員として人類全体の持続的な発展に貢献できる人物となる。</p>
2 学 期	<p>生徒は以下の開放科目の中から1～2科目を選択し、受講する。</p> <p>歴史学, ことばと文化, 文学 技術者倫理, 感性芸術学, 倫理学 科学技術と経済, 哲学, 日本国憲法 法学, 心理学 経済学, 社会学 教養基礎ゼミナール(「子ども」について考える) 教養基礎ゼミナール(ジェンダーとセクシュアリティを考える) 教養基礎ゼミナール(服飾美学)</p> <p>9月～1月で計15回の授業を行う。</p>	<p>理系から文系にまたがる広範な分野の科目を履修することにより、幅広い教養と多分野の知識を生かした総合的な判断力を涵養する。これにより自らが積極的に課題を発見し取り組み、主体的に解法を探る力を醸成し、市民の一員として人類全体の持続的な発展に貢献できる人物となる。</p>
3 学 期	<p>2学期に引き続き、上記解放科目を受講する(1月末まで)</p>	<p>理系から文系にまたがる広範な分野の科目を履修することにより、幅広い教養と多分野の知識を生かした総合的な判断力を涵養する。これにより自らが積極的に課題を発見し取り組み、主体的に解法を探る力を醸成し、市民の一員として人類全体の持続的な発展に貢献できる人物となる。</p>